

クラブが安心・安全に活動できるベース基地、海域の確保について第62回「市長とランチミーティング」は平成28年2月15日(月)に「八重山ジュニアセーリングクラブ」の皆さんと行われました。

代表 本日はお忙しい中ジュニアセーリングクラブ「YJSC」の為に貴重な時間を作って頂きありがとうございます。我々はこの「YJSC」の子どもを原石にセーリングという言葉を使う国際親善大使を送り出す活動を行っております。これまで練習場所に行政の許可が下りず苦慮してきましたが、昨年3月、石垣港フィシヤリーナを拠点に他船に注意を払いながら速やかに港内から出ることを条件に使用させて頂き、子どもたちは、クラブ発足から10ヶ月の練習で今は危ういながらも港外で練習できるようになりました。これが今の現状です。

保護者 昨年の3月に体験という形で参加させて頂きました。4月からの活動には都合で参加できなかった。半年ほどたつて再度クラブの練習を覗きに行った時に、子ども達と親御さんたちが素晴らしいヨットマンになっていたのに

驚いた。スタートが一緒だった子ども達がたった半年間で一人で準備して、一人でヨットに乗って、一人で海の上に行っている姿に感銘したのか子どもが「自分もああいう風に乗れるようになりたい」といったのがまた入部したきっかけになりました。他のスポーツでは味わえない達成感があると思います。また、お金持ちのスポーツと思われる島でヨットのことを知らない方が多いことに驚いたので、たくさんの方にヨットのことを知って頂きたいなと思いました。

代表 毎年新人を募集しようという予定でスタートしましたけど断念しています。安全を最優先に考えると我々の力量からすると設備があまりにも足りない。ドイツイから石垣に来ました。今年で3年目なんですけど、

石垣を選んだのは、娘を日本の小学校に通わせようという考えがあったと同時に石垣が子育てに良いと思っただけです。蘇澳鎮との姉妹都市関係があるのも、私は蘇澳鎮で特別課程のヨット過程をもつ小学校を選んで取り組みを進めました。娘もこの島で海と接することができ成長すると思えますので皆さんの子どもたちが参加できればいいなと思います。

保護者 私は江の島から石垣に来てもうすぐ8年目になります。江の島にはすばらしいヨットの所がありまして、大きなスロープがあつて子ども達が自分でヨットを台車に載せて海に入つて行つてやっています。私は設備よりも子ども達が安全に、親が安心してできるように、他の船から守られるように「ここはヨットをしているエリア」だということ全体に分かつてもらえるようにしてほしい。ヨット

トをやる自分である課題を見つけて、自分で解決しないといけない状況になる。そういうのが子どもの教育に素晴らしいし、ヨットをやるうえで石垣は素晴らしい土地だと思つたので、ご理解いただいでジュニアセーリングクラブの活動にご協力して頂けたらと思います。

代表 北海道でもやっている



んです。これだけ石垣へ観光客が海遊びに来ている中で、石垣の子ども達が海から離れている現実というのは非常に異常だと私は思っています。私は八重山という言葉が好きです。今は小さく船出していますけど、これをなお一層行政の力を借りて安全を最優先にしてほしい。

保護者 子どもがヨットから身を乗り出すことが怖くてできなかったが、できるようになった子どもを見た時に、これまでできないことに自分から挑戦することをしなかった子どもに対して、感動と成長を感じた。もう一つよかつたことは、小さい頃から海で遊ばせていたので海の楽しさは知っていたが、海の怖さは知らなかった。ヨットを通じて一人でヨットに乗り、風であおられたり波にやられたりすることを体で感じたり、乗っている途中で雨が降ったり暑くなったり寒くなったりという自然の変化も感じながら海の怖さも身についたことがよかつたと思います。

保護者 息子は性格がすごく消極的なので上手く友達をつ

くることが上手にできなかったし、言いたいことも言えなかった。ヨットを始めて嫌いとか怖いとかは一回もなく、練習に行く度に上達していったのが良かったのかヨットが大好きでたまらないくらいになりました。ヨットクラブの仲間ができたことによって学校以外の仲間ができて自分の居場所を見つけたことが自信になり、ヨットを始めてから急に積極的になり、親としても子どもの変化を感じる。野球部やサッカー部の子達が練習できるグラウンドがあるように、私達の子どもが好きなヨットができる海での場所があれば親として嬉しく思います。

代表 場所というのは、石垣では台風対策が必須です。トイレやシャワー、ヨットを海へ移動する10mくらいのスロープがある場所ということですね。石垣漁港フッシャーリーナを使用させて頂いているが、浮桟橋から下ろすということでは小型ヨットでは普通なこととです。子ども達は一生懸命自分のリスクを考えながらや

っているということなんです。保護者 子どもなので好奇心からセーリングをしながら海の下きれいな珊瑚に感動したり、青い海や波を感じることで親には感じ取ることができないことを子どもは感じ取っていると思います。また、海は一つで世界と海で繋がっているということを感じ、石垣の地理的な環境や八重山の素晴らしい環境や八重山の素晴らしさも感じていると思います。今ジュニアセーリングクラブで活動している人の中に沖縄出身は私一人しかいない。移住してきた方は石垣の良さを知って石垣が好きだから移住されているのは分かるが、地元の方は「危ないんじゃないか」とか当たり前すぎて解らない石垣の良さがあると思うのでみんなに知ってほしい。

代表 私も縁があつてこの石垣に住んで海大好き人間としてクラブをスタートしています。保護者からの話のとおり子どもが自己責任で海に出ていく。事故は自己責任であるという中で擦り傷を負うこともある。私は責任者として骨を折るとかハンデキャップを

持つようなこととか、当然ながら死亡事故など危険はあるという認識をさせるということ。それを経験させるということもつとこの八重山に広げて行く為には、安心して活動できるようになるまでは、小さく強く動いていきたいと思っています。

副市長 石垣港のことを考えますと物流のハブ港という一面と観光船やダイビング船と以外にも保安庁や水産庁の船もありいろいろな機能が備わった港です。しかしながら、ヨットについても内部で議論をしております。これからのレジャー産業として位置付けていけたらと思います。

市長 皆さんありがとうございます。熱い思いをしっかりと聞かせて頂きましたし、生きる力という部分をヨットを通してセーリングを通して学べる良い環境にあると思つたので、ぜひ子ども達が頑張れるようなことに行政もバックアップできるように頑張っていきたいと思っています。